

第 1 回県のがん対策に関するタウンミーティング報告書

実施日：平成 21 年 9 月 5 日（土）

時間：13:00～17:00

場所：浦添市てだこホール 市民交流室

主催：沖縄県がん診療連携協議会

参加人数：46名（一般 26名、政党関係 3名、報道関係 2名、医療関係 15名）

アンケート回答率：58%

9月26日（土）浦添市てだこホールにて「第1回沖縄県のがん対策に関するタウンミーティング」が開催された。一般市民と医療関係者、行政関係者が意見交換することを目的として開かれ、「もっと相談の場がほしい」「県がん条例の早期作成を」との提案には、参加した約 50 名全員が賛成の挙手で思いを一つにした。

前半部分では、NPO法人日本医療政策機構理事 埴岡健一氏による「全国各地におけるがん対策の現状」について紹介された。それと比較し、沖縄県福祉保健部医務課長の新垣森勝氏より「沖縄県のがん対策の予算と現状」について述べられた。それらの実状をふまえ、後半では参加者へ開始前に配布していたアンケート用紙を記入してもらい、その場で回収・集計をとったデータをもとにディスカッションが行われた。



今回、ディスカッションに参加した医療関係者、行政関係者

NPO 法人日本医療政策機構

理事

ほにおかけんいち

埴岡健一

沖縄県福祉保健部

医務課長

あらかきもりかつ

新垣森勝

北部地区医師会病院

副院長

しばやまじゅんこ

柴山順子

県立中部病院

診療内科部長

たまきかずみつ

玉城和光

那覇市立病院

副院長

くだかひろし

久高弘志

琉球大学医学部附属病院

がんセンター長

ますだまさと

増田昌人



会場からのアンケート回収結果より、9割が「現在のがん対策に関し満足していない」と考えていることが報告された。また会場より病院や医師によって治療方針が違うとの指摘があった事に関し、埴岡理事は「今後、県内すべての病院でがん治療の標準化をすすめようという動きがある。それが現実となることでたくさんの命が助かることを期待している」と述べた。その他にも、緩和ケア病棟が少ない・県の予算がすくないため対応できないなど、両立場（患者・医療関係者）からの切実な思いが訴えられた。

会の最後には宮古島出身歌手の砂川恵理歌さんより、あるがん患者さんの最期の言葉から生まれた曲「一粒の種」の他3曲が披露され、会場は大いに盛り上がった。



主催：沖縄県がん診療連携協議会

第1回沖縄県のがん対策 に関するタウンミーティング

入場料 **無料**
参加申し込み
不要

現場のニーズに沿ったがん予算の提案や、仕組みの改善などに関して、皆様からご意見を聞くことを目的として、タウンミーティングを開催します。

一みんなでがんの政策と予算を考えよう一

対象は、一般市民の皆さまです。

お問い合わせ先

もちろん、がん患者さんやそのご家族・ご遺族も含まれます。

琉球大学医学部附属病院がんセンター

一あなたの声を、がん政策に活かしましょう一

〒903-0215

西原町字上原207番地

電話：098-895-1368

FAX：098-895-1497

電子メール：mail@ryukyucc.jp

一般市民の皆さまと、医療関係者、行政担当者、議員等が一堂に会して、がん医療政策に関して直接議論したいと思っています。

*タウンミーティングとは、地域住民の参加により予算、法律、その他自治体に関わる今後の政策事項を話しあう集会のことです。

砂川恵理歌さん

ミニライブ開催 ～ 一粒の種 ～

今回、スペシャルゲストとして、宮古島出身の砂川恵理歌さんをお招きしてミニコンサートを開催します。あるがん患者の最期の言葉から生まれた楽曲「一粒の種」が話題になっている砂川さんの温かい歌声に、豊かなひとときをお過ごしください。



NHK教育テレビ（全国放送）決定

「福祉ネットワーク 一粒の種～
遺言から咲いた命の歌～」

アンコール放送が決定しました

8月31日（月）20:00～

9月7日（月）13:20～

今年6月に放送された、楽曲「一粒の種」ができるまでとこの歌が届けられるまでが描かれたドキュメント番組。好評によりアンコール放送が決定しました。



シングル「一粒の種」発売中
¥1,000（税込）

※放送日時・内容は変更になることがあります

日時：9月5日（土）午後1～4時

会場：浦添市 てだこホール

市民交流室



プログラムの内容は一部変更になる可能性があります。

♥ プログラムは裏面→

タウンミーティング プログラム

12:00～ 開場 「ご意見シート」の記入(来場者からのご意見の募集)

司会: 埴岡 健一 日本医療政策機構理事

13:00 開会のあいさつ

琉球大学医学部附属病院がんセンター長 増田 昌人

13:05 全国各地におけるがん対策と予算の現状 埴岡 健一

13:35 沖縄県におけるがん対策と予算の現状

沖縄県福祉保健部 医務課長 新垣 盛勝

14:00 -休憩-

14:10 ご意見シートの分析 増田 昌人

14:40 フリーディスカッション 座長 埴岡 健一

15:40 総括 埴岡 健一

16:00 砂川 恵理歌 ミニライブ

16:20 閉会のあいさつ 増田 昌人



* タウンミーティングとは・・・?

地域住民の参加(open town meeting)により予算、法律、その他自治体に関わる今後の政策事項を話しあう集会のことです

がん医療 向上へ声束ね

患者と家族・病院・行政、初の意見交換

県内のがん患者と家族、医療や行政の関係者が一堂に会し、がん政策の現状や課題を語り合う第1回県のがん対策に関するタウンミーティング(主催・県がん診療連携協議会)が5日、浦添市でたこホールで開催された。「相談の場がもっとほしい」「県の計画を県民に知らせる」など約50人が意見を交換。「県がん条例の早期作成」の提案には、全員が賛成の挙手で思いを一つにした。



県のがん政策の現状や課題について意見を申し出たがんタウンミーティング5日、浦添市でたこホール

県政策・予算 9割が不満

ミーティングにはNPO法人日本医療政策機構の堀岡健一理事と、琉大付属、北部地区医師会、県立中部、那覇市立の県内四つのがん拠点病院の各医師、県医務課長の6人が登壇。会場から回収したアンケートで約9割が「現在のがん対策に満足していない」「がん対策予算が不十分」と考えていることが報告された。会場の「相談場所がない」との声に、県立中部病院の玉城和光医師は「一病院の相談窓口は6時で終わるところも多い。留守番にメッセージを残してもらい、あとできちんとこたえる方法もあるのでは」と提案。「医師の態度に傷つく患者が多い」との意見には、琉大病院がんセンターの増田昌人医師が「古いタイプの医師は、コミュニケーションや告知のあり方を学ばず、厳しい部分があるのも事実。今は教育も改善されるのを待たなくてはならない」と返答。酒院や医師によって治療方針などが違うとの指摘には、増岡理事が「県の協議会で、県内すべての病院でがん治療の標準化を進めよう」という動きがある。これ

が整えば、数百人の命が助かると期待している」と述べた。また「緩和ケアやホスピス病棟の整備」「県の政策が見えづらい」「少ない予算で対応しきれない」など切実な声が続いだ。増岡理事は、県のがん予算が全国一高い島根、緩和ケア支援センターを整備した長崎、実効性ある計画を作成した愛知、患者満足度調査を実施している高知など先進事例も紹介。

2007年度の沖縄県のがん予算が全国で下から3番目ということも県民は知らない。多くの場で話し合い、意見を束ねて届けることが大切。みんなで作る「あけていこう」と訴えた。

25) 社会 1版 2009年(平成21年)9月6日 日曜日

がん対策 民・官・医が議論 「相談体制拡充を」

拠点病院には相談支援センターが設置されているが、対応しているのは平日の日中。悩みを抱える人が利用しにくい。いつでも相談できるようにしてほしい」という意見に対して県立中部病院の玉城和光血液・腫瘍内科部長は「病院単位では時間外は留守電で対応し、時間のあるときに相談に乗ることができる。県全体で考えるなら、24時間対応の相談センターを1カ所つくることで解決できるのではないか」と提案した。

育の必要性についても意見が交わされた。全国のがん対策に詳しい日本医療政策機構の埴岡健一理事は「患者、家族の目線で、何をすれば良くなるのかを考えて声を上げることががん対策が良くなる道だ」と述べた。

県のがん対策を県民、医療従事者、行政担当者が話し合う「第1回県のがん対策に関するタウンミーティング」(県がん診療連携協議会主催)が5日、浦添市のてだこホールで開かれた。参加者からは相談体制や緩和ケア体制の不十分さを指摘する声や、県がん条例の制定や標準治療の推進を求める意見などが上がった。

開会前に参加者に「意見シート」を配布し、意見を募集。集まった意見を元に医療関係者、行政担当者らが登壇し、自由に討論した。県内四つのがん診療連携

拠点病院には相談支援センターが設置されているが、対応しているのは平日の日中。悩みを抱える人が利用しにくい。いつでも相談できるようにしてほしい」という意見に対して県立中部病院の玉城和光血液・腫瘍内科部長は「病院単位では時間外は留守電で対応し、時間のあるときに相談に乗ることができる。県全体で考えるなら、24時間対応の相談センターを1カ所つくることで解決できるのではないか」と提案した。

緩和ケアに対しては、病床が不足している現状や、医師間の認識の差などの問

主催：沖縄県がん診療連携協議会

第2回沖縄県のがん対策 に関するタウンミーティング

入場料 無料
参加申し込み
不要

現場のニーズに沿ったがん予算の提案や、仕組みの改善などに関して、皆様からご意見を聞くことを目的として、タウンミーティングを開催します。

一みんなでがんの政策と予算を考えよう一

対象は、一般市民の皆さまです。

もちろん、がん患者さんやそのご家族・ご遺族も含まれます。

一あなたの声を、がん政策に活かしましょう一

一般市民の皆さまと、医療関係者、行政担当者、議員等が一堂に会して、がん医療政策に関して直接議論したいと思っています。

*タウンミーティングとは、地域住民の参加により予算、法律、その他自治体に関わる今後の政策事項を話しあう集会のことです。



日時：11月21日(土)午後1～4時

会場：ジュビランス 2階会議室

〒901-2203 宜野湾市字野嵩736番地

TEL:098-892-0005 FAX:098-892-6051

URL:<http://www.jubilance.jp/>

◆お問い合わせ先◆

琉球大学医学部附属病院がんセンター

〒903-0215

西原町字上原207番地

電話： 098-895-1368

FAX： 098-895-1497

電子メール： mail@ryukyucc.jp

ホームページ：

<http://www.ryukyucc.jp/>



第1回沖縄県のがん対策に関する タウンミーティング 意見シート集計結果

実施日:平成21年9月5日(土)

時間:13:00~17:00

場所:浦添市てだこホール 市民交流室

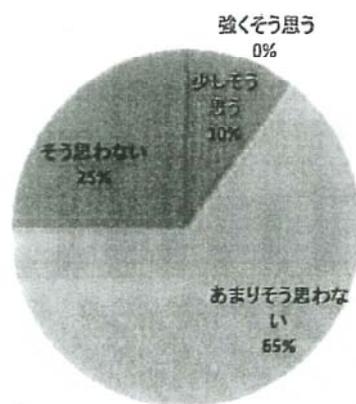
主催:沖縄県がん診療連携協議会

参加人数:46名

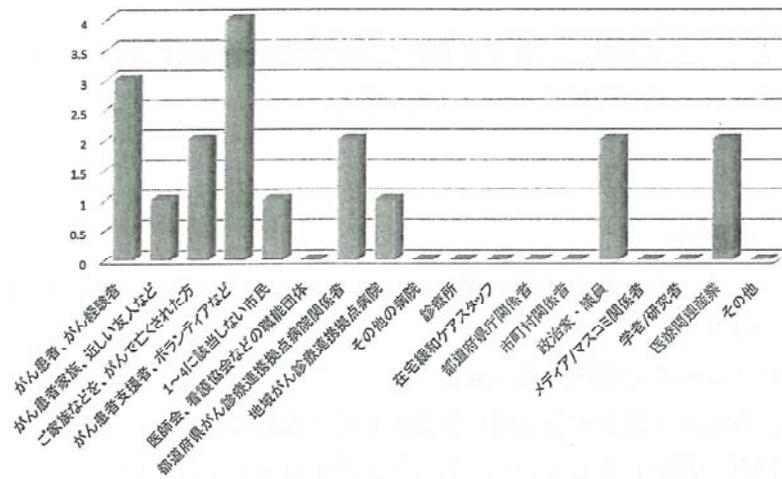
(一般26名、政党関係3名、報道関係2名、医療関係15名)

アンケート回答率:58%

問1.現在の「がん対策」に満足されていますか。



ご自身に関して



個々のご意見

- がん対策について
 - A 現在の問題点・課題
 - B 実施してほしい対策と予算措置
 - 1 がん予防とがん検診
 - 2 がん治療
 - 3 がん医療従事者の育成
 - 4 体制作り
 - 5 がん対策の立案プロセス・予算措置

<がん対策について；現在の問題点・課題>

1 がん予防とがん検診

- ・ がん予防のための予算がどのように、いくら使われているのか知らない。
- ・ がん検診の拡大
- ・ 年1回の検診を受けているが十分か？
- ・ 諸外国に比べたばこが安すぎる。
- ・ がん検診がなかなか受けられない。
- ・ 誰でもかかる可能性があるという立場から、早期発見のための検診の充実例えば、民間会社、自営業者が必ず受診できるようにする経費負担がないようにするなど
- ・ がん予防の啓発
- ・ 未成年からの長期喫煙
- ・ 家庭における喫煙者からの裾流煙
- ・ 今年、夫が癌で亡くなりました。最初から末期の進行がんでした。本当に残念です。早期発見を、反省を込めて強く望んでいます。
- ・ たばこ喫煙防止対策、特に未成年者の喫煙防止の強化
- ・ 健診で「要精査」となり、診療所で検査すると同じ検査をして「異常なし」や、「経過をみる」という医師のほとんどが「専門外の診断」をしている。もっと医師が自覚してほしい。
- ・ がん早期発見に血液検査を推進希望する。
- ・ がん検診等の受診率アップ
- ・ 血液検査でがんが分かると思う。

2 がん治療

- ・ そもそも癌にかかる治療がなにかというのが浸透していない。
- ・ 終末期の治療方法について。決して生きる希望を失ってはいないという患者が多い。痛みをケアする中で分子標的治療薬などの高度な技術を、そして費用を軽減されること。
- ・ 外科的治療が先ではなく、分子標準的治療薬の有効利用。
- ・ 医療機関により治療に差がある。
- ・ 早期発見が出来るケースも多いとはおもうのですが、そうでないケースもまだまだ多いと思う。
- ・ 外来化学療法を受ける人の医療負担が大きすぎる。
- ・ 私は慢性骨髄性白血病が発症しています。グリペックを服用していますが費用が高い。グリペックは、韓国では無料というが少なくとも特定疾患にしてもらい少なくとも個人負担1万円にしてほしい。
- ・ 現在高額療養費支給を受けているが、那覇市は病院窓口で全額個人負担分10万円を払ってから全国国民健康保険協会に手続きをしてから4万円の負担になっている。病院窓口で直接4万円払えば、それですむよう病院窓口と全国健康保険協会と連携させて、毎回手続きをしなくてすむようにしてほしい。経済的にも不安です。
- ・ 標準治療の浸透
- ・ 緩和ケアの充実

- ・ がん研究の推進

3 がん医療従事者の育成

- ・ がんの専門医・看護師の育成。技術、心のケアをしっかりと学んで欲しい。
- ・ まず、医師そのものが不足している。また、十分な医療施設や治療体制が整っていない。
- ・ 研修の場（認定看護師等の取得）が東京に1か所しかないために専門家が少ない。
- ・ 放射線科の治療医も少なく不安です。
- ・ 医師の態度やコミュニケーション能力のなさに、傷つく患者が多すぎる。
- ・ 医師（主治医）の緩和への認知の低さ。
- ・ 医療従事者のリーダーシップ、人材育成はかかせない。
- ・ 医療従事者の育成。がんについて何でも相談乗ってくれ、疑問や不安を解決できる専門家が少ない。
- ・ また精神的、生活上の不安を解消するようにメンタルケアをしてくれる専門家を養成して欲しい。
- ・ 人材育成には時間と費用がかかる。また、各職種はそれぞれ忙しく研修へ行く時間が十分に確保出来ない。研修に誰か行くと、欠員になり現場の労働環境が悪化するという悪循環がある。
- ・ 医療従事者の育成のための技術向上や、研修の充実を図られているが、がん患者への接遇など心のケアも重要な医療人としての基盤となるものと考えています。研修内容の充実をはかる中で、広く視点を見据えた育成プログラムの構築が必要と思います。
- ・ 医師の確保

4 体制作り

- ・ ホスピス医院から自宅への在宅医療へのスムーズな連携体制が整ってほしい。
- ・ 心のケアをするサロンを作って欲しい。告知の時のがん体験者のフォローをできる体制。
- ・ 緩和ケア病棟が少なく、家族の負担が多くなる。対応に不安。
- ・ 在宅療養をすすめる又は続けるには困難がある。介護者の負担を減らすには経済的問題がかかわってくる。
- ・ 自然な形で相談できる、本当に相談したい時に相談できる、相談したい人に相談できるにはどうしたらいいのかと思います。
- ・ ホスピスと長期療養型の病院における長期治療。
- ・ 緩和ケアの病院が少ない。
- ・ ホスピス病院が少なすぎる。
- ・ 在宅医療の場合急に病が悪くなったときに、不安がある。
- ・ 沖縄県の行政のなかで、がん対策について長期的視野をもって、各医療機関を繋ぐ専門の部署と専門家がいない。
- ・ 県が作成した「保健医療計画」をもっと一般人へ普及して欲しい。医療機関への配布では何のための計画か。
- ・ がん患者が病気の実態を理解できるような講習をして欲しい。

5 がん対策の立案プロセス、がん対策のための予算（財政）措置など；現在の問題点・課題

- ・ がん対策のプロセスがはっきりしていないということ。
- ・ 予算が少なく、やりたくても実行できない現状。
- ・ この前の補正予算で組まれた「女性特有のがん」のような、その場しのぎの施策はやめてほしい。
- ・ 現在、グリベックを服用、治療で高額医療控除を受けているが、それでも月3万円前後の自己負担となっている。今後、半永久的に薬の服用を続けると老後のこともあり、心配である。
- ・ がん対策の普及啓発を県民を挙げて実施してほしい。
- ・ 国は、地域がん診療拠点病院2千2百万の予算で拠点病院としての様々な事業や役割を求めているが、実際は沖縄県では480万となっている。その予算で、2200万分の仕事をするのは難しい。
- ・ がん患者の数に対して、ホスピス病院が少なすぎる。

<がん対策について；実施してほしい対策と予算措置>

1 がん予防とがん検診

- ・ 子宮頸がんのワクチン。分子標的治療薬の使用。安価か無償提供して欲しい。
- ・ すべてのがん検診を必修項目にすることが出来ればと思います。(その際の個人負担をできるだけ少なくしていただけるとありがたいです。)
- ・ 検診への補助、低料金での受診。
- ・ たばこの値上げ、禁煙エリアの拡大。
- ・ すべての人が受けられる検診制度、市や県が行う当然のサービスとして提供すること。
- ・ いろいろの検査器具等があつてすぐにがんの発覚が分かるのいいが、検査の医療費がもう少し安く受けられるといいと思う
- ・ たばこの値段をもっと上げてほしい。
- ・ 普段どんなに気をつけていても、病気になる時はあるんだと思います。だから、その為にも早期発見が大切であると考えます。

2 がん治療

- ・ 分子標的治療薬を最善に使って、外科的治療ではなく、特に乳房を完全に残す方法で。
- ・ がん治療の費用面の負担。グリベックは韓国では無料で国が負担している。
- ・ 標準治療、高度医療の均てん化
- ・ がん治療の充実に予算を投入する。
- ・ 治療費が高いので負担が大きい。

3 がん医療従事者の育成

- ・ 医師不足を解消するための予算を投入。
- ・ 沖縄にも研修の場の設置を。
- ・ 医療者への教育の強化(海外研修含む)
- ・ 人材育成には、短期と長期の視点で取り組む必要がある。研修へ出られるように代替用員の確保な

ど。ゆとりのある医療現場の労働環境作りに予算が使えるようにしてほしい。

4 体制作り

- ・ 高度医療の研究施設の設置。高度な検査機器や設備。
- ・ 負担のかからない費用、技術をもっと国が支援して欲しい。
- ・ がん（女性特有）専門病院の設立をして欲しい。
- ・ 国策として取り上げる。
- ・ 国立がんセンターのような医療機関の設置やそこに至るアクセスを整備すべきである。
- ・ ホスピス等のがん専門病棟の設置を。
- ・ 医療機関の詳細情報の提供を。
- ・ 医師の専門分野を看板などに明記することをしてほしい。
- ・ 県庁のなかに、がん対策推進プロジェクトチームを作るのはどうか。ぜひ、臨床の現状をよく見て対策をしてほしい。
- ・ ホスピス病院を中部に設置してほしい。

5 がん対策の立案プロセス、がん対策のための予算（財政）措置など

- ・ プロセスの制度化が必要である。
- ・ がん情報の開示を（医療機関の詳細）
- ・ 国⇄県→市町村⇄住民との連携のための予算を。
- ・ 国、県への働きかけ（市民含む）が必要
- ・ 沖縄で多いがんから、計画的に1つ1つ対策を立てて取り組んでほしい。
- ・ 行政側（県・国）に自己負担を1万円前後に出来ないか予算措置をしてもらいたい。
- ・ 国が示している予算が、どの県でもきちんともらえるような予算措置が出来るように制度を変えて頂きたい。
- ・ ホスピス病院や在宅緩和病院に予算措置してほしい。

みんなでがんの施策と予算を考えよう(がん対策に関するタウンミーティング)

みなさんのご意見をお寄せください。下記にご記入ください。簡単でもけっこうです。

【問1】 現在の「がん対策」に満足されていますか。一つ選んで○を付けてください。
 1 () 強く思う 2 () 少し思う 3 () あまり思わない 4 () そう思わない

【問2】 現在の「がん対策のための予算」は十分だと思いますか。一つ選んで○を付けてください。
(あなたが現場や暮らしの中で感じるところで結構です)
 1 () 強く思う 2 () 少し思う 3 () あまり思わない 4 () そう思わない

【問3】 【個別テーマについて】がん対策でもっとも重要であると思うテーマを、下記から選んで○を付けてください(3つまで)。

1() 医療従事者の育成(医師など)	8() がんの予防(たばこ対策など)の推進
2() 緩和ケアの充実(緩和ケアチーム、ホスピスなど)	9() がんの早期発見(がん検診)の推進
3() 在宅医療の充実	10() がんの研究の推進
4() 最適な(標準)治療の浸透	11() がん計画の進捗管理と評価
5() 医療機関と連携体制の整備	12() がんの種類別の対策 [具体的種類:]
6() 患者支援と相談/情報提供体制整備	13() その他の個別テーマ [具体的に:]
7() がん登録の整備・推進	

【問4】 がん対策について、あなたのご意見をお聞かせください。まず、上記の13分類のうち該当する番号を記入してから、ご意見を書いてください(3つまで)。なお、同じテーマ番号が続いてもけっこうです。

●ご意見1 テーマ番号() ←上記の1~13からひとつ選んで記入してください。

◇現在の問題点、課題

◇実施してほしい対策と予算措置

●ご意見2 テーマ番号() ←上記の1~13からひとつ選んで記入してください。

◇現在の問題点、課題

◇実施してほしい対策と予算措置

<意見記入シート 原本>

●ご意見3 テーマ番号() ←上記の1～13からひとつ選んで記入してください。

◇現在の問題点、課題

◇実施してほしい対策と予算措置

【問5】 【全体について】がん対策の立案プロセス、がん対策のための予算（財政）措置などの全般に関して、あなたのご意見をお聞かせください。

◇現在の問題点、課題

◇実施してほしい対策と予算措置

*ご自身に関して：

【1】 下記からもっとも近いものを一つ選んで○を付けてください。

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1() がん患者、がん経験者 | 10() 診療所 |
| 2() がん患者家族、近しい友人など | 11() 在宅緩和ケアスタッフ |
| 3() ご家族などを、がんで亡くされた方 | 12() 都道府県庁関係者 |
| 4() がん患者支援者、ボランティアなど | 13() 市町村関係者 |
| 5() 1～4に該当しない市民 | 14() 政治家、議員 |
| 6() 医師会、看護協会などの職能団体 | 15() メディア/マスコミ関係者 |
| 7() 都道府県がん診療連携拠点病院関係者 | 16() 学者/研究者 |
| 8() 地域がん診療連携拠点病院 | 17() 医療関連産業 |
| 9() その他の病院 | 18() その他〔具体的に： 〕 |

【2】 お住まいの都道府県を教えてください。

(住所ではなく、治療病院、勤務地の所在地など、ゆかりの深い地域で答えていただいてもけっこうです)

〔都道府県名： 〕

いただいたご意見は、個人が特定されない形で、がん対策推進協議会の会議資料等に反映させ、がん対策の推進に活かしていきます。
ご協力、ありがとうございました。